

，  
S  
F  
I  
N.

フィン

大成  
杏奈

【登場人物】

碧（みどり） ……人魚 女  
子安貝アコヤ（こやすがい あこや） ……人間 女  
潤豊（じゅん ゆたか） ……教授 男  
蛸井陽炎（たこい かげろう） ……悪魔 男  
水鳥ペリカン（みずどり ぺりかん） ……役場の人 男  
蔵狩深海（くらがり しんかい） ……変な人 男  
音無卓（おとなし すぐる） ……音響卓の人 男  
（音響卓の人じゃなくてもいいよ！）  
照山都（てるやま みやこ） ……照明卓の人 女  
（照明卓の人じゃなくてもいいよ！）  
人魚姫 …… 女  
シイラ ……人魚姫の付き人 女  
ホヌ ……人魚姫の付き人 男  
海鵜みう（うみう みう） ……水鳥ペリカンの後輩 女  
釣り人 …… 男

○序

碧

お伽話の絵本のように、むかし、むかしで始めましょうか。  
ええ、人魚です。

改めまして、人魚の碧と申します。

お話しできるのもこれで最後。お詫びと言ってはなんですが、少しお付き合い  
願います。きっと、あなたのためになる話。

時を、遡りまして。

魂と、命の関わりやまして、

人魚など、神話の造物でしかなかった時代でございます。

目を閉じて。

貝殻を当てて聞くような、涼やかな波の音。

砂浜を下り、足裏を傷ませ、打ち際を過ぎた先。

海水が耳の奥まで満たせば、人の知るさざ音など聞こえません。そこは人の知  
れる所ではない。この無意識の海原で、わたしは溶けていなくなる。いいえ、  
わたしは元よりいなかった、元より……わたしなんて、(絵本のページをばら  
撒く)

一切関係ない話でございます。

○一

科学者 1、潤の役者が演じる。

科学者 2 以下、科学者 1 の分身、または科学者 1 配下の者。

科学者 3

科学者 4

科学者 5

発明当初の魂観測器の前で、科学者 1 が髪を振り乱し、世紀の発見に騒いで  
いる。魂観測器は起動しており、禍々しい光を放っている。

○ 内はアコヤの台詞と被せる。

科学者 1

魂の真実在が二千五百年を費やしやあああああああ！

科学者 2

数値はどうだ貴様！

科学者 3

うるさい、この美しい泡玉を見ろ！

科学者 1

① (私は二千五百年目の天才となる。

この結果を学会に提出せよ！)

科学者 3

生物学だ！

科学者 4

医学だ！

科学者 5

解剖学だ！

科学者 1 ②（ソクラテスが残した思考の遺伝子は思考の海で留まらぬ肉体的な疑問を投げた。古代、哲学者と科学者は同義であったのだから私は彼の息子である。）

科学者 3 見ろ！ 他のやつらは！

科学者 4 ああ、オカルト学会を道楽だと言ってきた。

科学者 2 幽霊の存在が、

科学者 4 死後の世界が、

科学者 5 妖怪の絵巻が、

科学者 3 妄想と言えるか！？

科学者 5 言えない！

科学者 1 全ての生命は魂により存続する。

科学者 2 魂は実在する。

科学者 1 そう、私がここに証明する！

アコヤ ①（それは偉人の発見でした）

②（あたしは小学生の時、教科書で知ったんです。そして志した。科学の世界を。夢を目指す場所を）

アコヤ あたし、人魚になりたいんです！

潤 ……え？ なんだって？

アコヤ あたし、人魚になりました！

潤 ……ここは人魚になれる場所じゃないんですがね。

アコヤ 安心してください、あたしをここに置いてくだされば、必ずや研究の成果を上げ、ここを人魚になれる場所にしてみせます！

潤 そんな場所にもらっちゃ困るんですよ。

アコヤ ええっ！ どうしてですか！？

潤 ここは、人魚の実在可能性を研究する場所だからです。

音無 人魚実在可能性研究所は、海に近い辺境の村にある。なぜ辺境にあるのかというと、人魚伝説が残る地域に、あえて設立したからだ。人魚伝説を研究することで、人魚の実在を証明する。ここは、そんな高尚な目的を掲げた、はぐれものの巣窟だ――。

蛸井 やあやあ、また濃ゆいのがやってきたじゃない。人魚を本気で探そうなんていう研究所だ、放っておくとそりやあね、ココが変わったのばかりやってくる。そんなだからオカルト学会の中でさえ、いつまでも株が上がらねえんで

すよ。

アコヤ どわっ！

蛸井 はじめまして、どうも蛸井陽炎と申します。

アコヤ いったいどこから！

蛸井 ふっふっふ、陽炎のようにふらりふらりと、神出鬼没の悪の道化師・蛸井陽炎とは私のことです。

アコヤ よろしくお願ひします、蛸井先輩！

蛸井 まあ今の聞きまして？ 礼儀正しい良い子なこと。よろしく後輩。

潤 待ちなさい。うちは受理していません、入所願。

アコヤ 他にも研究員がいるんですか？

潤 ちよい……。

蛸井 いますよここに。(引っ張り出す)

蔵狩 (引っ張り出される)今いいところなんで……。

アコヤ 初めまして！ 今日付けで研究所に配属になりました、子安貝アコヤです。

蔵狩 蔵狩です。

潤 だから勝手に配属されるんじゃないよ。

アコヤ 潤教授！

潤 はい。

アコヤ あたしの配属は、大学から事前に連絡されているはず。教授から承諾もあつたと聞きました！

潤 はい？

蛸井 (教授のパソコンのメールを見ながら)潤豊様。はいはい、メール来てますね。

潤 嘘だ。

蛸井 この前役場と、ひと悶着あつた日っすね。無言は了承と取るそうです。多分厄介払いつすね。

潤 礼儀正しい良い子じゃないのか。

蛸井 今までの態度のどこに礼儀正しさがあるんすか？

潤 ひえ……

アコヤ 人魚志望のドリーミーガール、子安貝アコヤ、見参です！ ここが始めのページ！(ページを拾う)

〇二一

音無

つまり、時間を遡る。それが研究の初歩だからだ。碧さんの話と、我々の曖昧な記憶、これらを元に書き上げよう。

我らが研究所にとつて、これは死活問題だ。

まずは研究に欠かせない、大事な装置を見せてあげ……、

うっ、ぐっ、ごほッ、ごほッ、ぐ、ぐが……（呼吸困難になりながら音響卓へ）

（音響卓につく）スーッ、ハーッ、スーッ、ハーッ

アコヤ 大丈夫ですか？

蛸井 音無さんはしようがねえんです。魂観測器に心を奪われてからというもの、魂観測器の傍にいないと息ができなくなったのです。

アコヤ あの人も？

蛸井 照山さんはまだマシかな。魂に魅了されてから、魂のこと以外は口がきけなくなっただけです。

アコヤ 魂観測器があるんです？

音無 復活だ！ 任せろ！

蛸井 ちよつとそこに立ってみ。

アコヤが位置に立つと、音無、照山が掛け声と共に照明音響を切り替える。

音無 魂観測器、起動。

照山 運転状態正常、対象の魂を確認、肉体、魂、共に数値正常。魂の観測を開始します。

音無 主よ、造物の権限を超越する我らを今赦したまえ。

照山 主よ、創造主の伊吹を愛することを今赦したまえ。

音無・照山 願わくば、顕現されし魂が美の頂点とならんことを！

なんかすごい派手で綺麗な照明、音響の演出。

アコヤ うわーあ！ 出たー！

蛸井 そう、そこに映ってるのが君の魂です。こうやって観察するのが、研究の基本だよ。

アコヤ さつきの掛け声は何ですか？

照山 な、な、なんて綺麗な魂だ！ ここまでの輝きは初めて見る！ この年になると、魂とはいくらか陰っているものだ。だけど、これは！ 向こう側が透けるほど澄んでいる、歪みのない完全な球体……！ まごうことなき、美しさ！

アコヤ あ、ありがとうございます！

蛸井 照山さんは相変わらずだね。

音無 でも、確かにとても綺麗な輝きだ。子安貝は心がまつすぐなんだろうね。

アコヤ 嬉しいです！

照山 はわわ……、ぷるっぷるだ、ぷるっぷる……。クラゲみたい……。私も欲しい！ そうだ！ 食べたあい！

アコヤ え？

音無 食べる？

照山 いただきます。あーん。

アコヤ ええええええええ！？

蛸井 ちよいちよいちよい！

音無 だめだよ！？ 死ぬよ子安貝が！

照山 あーん。

音無 止まって照山く！

蛸井 あ、それ消せて！

音無 そうか！ 魂観測器、停止。

魂観測器停止。照山の動きも停止。

アコヤ 何が起きたんですか？

音無 ……照山ー！ 君と同じく、この装置に人生を狂わされた身として言わせてもらうが、今のはさすがにまずいと思う！

アコヤ お腹がすいていたんですか？

音無 お腹がすいていてもだめだ。魂を取られた人間は死んでしまう！ もっと怒ろう、子安貝！

アコヤ 確かにそうですが、それより、照山先輩の方が気になります！

照山 ……。

アコヤ ……。

照山 ……ぴっころ？

アコヤ ぴっころ？

照山 びーぱっぱっぱラッポ。ぱっぱばらっぱ。

音無 もうだめだ、活動時間を過ぎてしまった。

蛸井 照山さんは相変わらずだね。

アコヤ 魂の事しか話せないというのは、こういうことなんですね。あんなに流暢にしゃべっていたのに、びっくりです。

音無 そうなんだ。この研究所には、狂った人間が集まるんだ。魂に狂わされた人間が。

蛸井 音無はまだ大丈夫なの？

音無 しまった！ う、い、息が……！ ご、ゴッホゴッホゴッホ、スーッ、ハーッ。

蛸井 さて、今の慌てつぶりを見てわかる通り、魂は人間の命を存続させる要の器官。魂を失うと人間は死んでしまう。それを、子安貝さんは、どうやって取り出すつもりなの？

アコヤ 魂を取り出すと死んでしまうのは、ちゃんと理解しています。ですが、アングデルセンの童話によると、人魚には魂がありません。人魚がヒトの一種である以上、魂がなくても生きていけるメカニズムが存在するはずですよ。あたしは、そのメカニズムを解明しようと思います。将来、人魚になるために！

蛸井 アンデルセンの童話ねえ……。

音無 つまり子安貝は、人魚とは、人間から魂を取り出した存在であると考えているわけだ？

アコヤ その通りです！ 人間としての核を失うことによって、体までが変化し、魚の特徴を持つようになるんだと考えています。

蛸井 そうかい。いいねえ、その難儀な研究方針は、この研究所にぴったりだ。そういうところは、蔵狩さんにそっくりね。

蔵狩 ……今いい所なんで……。

蛸井 子安貝先輩にアドバイスをください。

蔵狩 全然違うんで、一緒に読んでいただいて……。

アコヤ 蔵狩先輩はいつも何を読んでいらつしやるんですか？

音無 だめだ子安貝、その本に近づいてはならない。それは人間の闇だ。

アコヤ 人間の闇？

蔵狩 闇じゃない。

蛸井 マイルドに言うとは？

音無 マイルドに言うとは……裸の人魚の絵画集だ。

アコヤ 人魚はだいたい裸では？

音無 だからマイルドに言うのだろ。

蛸井 蔵狩はチョウチンアッコウの人魚を探しているんだよね。

アコヤ チョウチンアッコウ？ 話が全然見えません！

蔵狩 なんですだよ。アッコウに裸とくれば、もう一つしかないでしょ。

音無 そんなの君だけだ。

照山 ばらっぱ。

蔵狩 そんなに言うなら説明しますけど。あんた、アッコウの生態わかる？

アコヤ いいえ。

蔵狩 アッコウのオスとメスが会おうと、オスはメスの体に噛みついて、融合するんですよ。オスの臓器は、精巣を残して退化し、頭はメスの皮膚に埋もれて、瘤のような状態でメスに寄生する。わかった？

アコヤ 何がですか？

蔵狩 俺人魚と融合したいの。

アコヤ ……一緒にしないでください。

蛸井 アンコウの人魚と交尾したがってる変態とは一緒にしてほしくないと。

蔵狩 変態じゃない。

音無 それは違う。

蔵狩 は？ 人類の伝統的な願望でしょうが。この絵画集が証拠でしょ。

音無 だから人間の闇だつて言ったんだ！

蛸井 まあ、俺が最初に言ったのは、そんな細かい話じゃなくてですね。居るかどうかもわからん人魚に、欲望や理想像を押し付けている、そういう二人の共通点よ。難儀なことだなあ。

アコヤ 難儀、でしょうか。

蛸井 同情を禁じ得ないね。だから、やっぱり蔵狩は子安貝さんの面倒見てあげた

方がいいんじゃない？

蔵狩

蛸井 ほら、蔵狩だつて、人魚になりたがっているとも言えるわけだし。

蔵狩 言えません。

アコヤ よろしくお願いします！

蔵狩 嫌です。

音無 とはいえ蔵狩のことだ、なんだかんだ言つて様子見くらいはしてやるんだろ  
うなああと、この時点では誰もが思つていた。だから翌日、彼が行方を眩ませ  
たと知れた時には驚いたものだ。出奔するほど嫌がることでもないだろうに。  
貴女がやって来たのは、そんな混乱の直中だった。貴女は、我々が夢中にな  
るような餌を提示して、蔵狩の失踪を霞ませてしまった。(ページを拾う)

### 〇三

碧 人魚です。

潤・音無・アコヤ ……(思い思いの困惑)

碧 わたくし、人魚の碧と申します。

潤 ……ここは人魚が来る場所じゃないんですがね。

碧 まあ、どうしてですか？

潤 ……ここは人魚の实在可能性を研究する場所だからです。

碧 それなら、わたくしはお役に立てると思います。何せ、本物の人魚ですから。

アコヤ に、人魚なんですか？

碧 はい。

アコヤ あ、あの、ずっとファンでした！

音無 違うだろ〜子安貝。足がある、陸上で息してる！ ただの虚言癖がある人間  
だ。

碧 ああ、正確には、元人魚なんです。

アコヤ 元人魚！？

音無 元人魚……！？ ちょっとよくわからな……息継ぎしてきます。

蛸井 やあやあ、また濃ゆいのがやってきたじゃない。人魚を本気で探そうなんて研究所だ、ココが変わったのばかりやって……つて、ええ！？ 人魚！？

嘘お、本物！？

碧 ふふ。……わざとらしいですね。いつもこんな感じなんですか？

潤 ……ええ、愉快犯じみたところがありましてね。失礼な奴で申し訳ない。

それで、人魚だというあなたが、ここに何の用ですか。あいにく、こっちは今、他にも問題を抱えています。あまり時間を割くわけにもいかないんです。

碧 あら……、わたくしは、貴重な研究対象のようですが。つれませんね。

アコヤ あのあの！ あたしは、お話を聞きたいと思います！ どうやって人間になつたんですか？ 人魚が人間になれるということは、人間も人魚になれるはずですよ！ あたし、人魚になりたいんです！

潤 勝手に話を聞くんじゃない。

碧 わかりました。

蛸井 何が？

碧 わたくしが、あなた方の研究に有用であることがわかりました。

潤 子安員の研究は例外的なんです……それより、早いところ要件をね。

碧 まあまあ、慌てずに。まずは、わたくしの魂を見てください。

潤 まあまあつてあんたね。

蛸井 まあまあ、教授！ 一旦言うこと聞いてみましょうよ！ 魂を見るだけなら

ほら、専門の人がいるじゃない！

照山 アイアイ。

音無 え……。

碧が位置に立つと、音無、照山が掛け声と共に照明音響を切り替える。

音無 魂観測器、起動。

照山 運転状態正常、対象の魂を確認、肉体、魂、共に数値正常。

魂の観測を開始します。

音無 主よ、造物の権限を超越する我らを今赦したまえ。

照山 主よ、創造主の伊吹を愛することを今赦したまえ。

音無・照山 願わくば、顕現されし魂が美の頂点となるんことを！

なんかすごい派手で綺麗な照明、音響の演出。

碧　今の掛け声は？

アコヤ　魂が……。

照山　穢れている。

アコヤ　照山先輩。

照山　陰っているくらいなら珍しい話じゃない。しかし、この魂は欲望で煤けて、輝きを失っている。まるで重度喫煙者の肺のようだ。

アコヤ　こんなに汚れている、碧さんは大丈夫なんですか？

照山　魂の穢れは、その持ち主の個性に過ぎない。問題とすべきは、この魂と肉体の結合が弱い点だ。そうだろう、音無。

音無　確かに、魂と肉体の質的数値が、同一人物のものにしては乖離している。

アコヤ　つまり、どういうことですか？

照山　ばぶう。

音無　言いたいことは終わりのようだ……。

潤　他人の魂を移植しましたか。

アコヤ　た、た、魂の移植くくく！！？？　そんなことができるんですか！？

碧　できないでしょう。

アコヤ　ど、どういうことですかくくく！？

碧　それが、わたくしもよくわからなくて……。この魂は、突然生まれてきたんです。魂を持たなかった、この体に。

潤　要件は？

碧　わたくし、ここが人魚の研究をしている場所だと聞いて参りました。人魚であったわたくしにどうして魂が現れたのか解明してほしいのです。加えて望めるなら、この魂をわたくしのものにしてください。魂が体に馴染んでいないのはわかります。このままではやがて魂は分離され、わたくしは元の人魚に戻るでしょう。

潤　というと？

碧　わたくしは、人間になりたいのです。

あなたと反対です。

アコヤ　そうですね。

碧　わたくしを研究することは、きっとあなたの役に立ちます。

アコヤ　そうだと思います。

潤　ここは病院じゃないんですがね。また、子安貝の研究所でもない。私の研究所です。私の研究は、人魚の存在を立証することです。見返りもないのに、そんな人助けのような真似はしません。

碧　では、二つ目の願いは断っていたで構いませんわ。

魂が生まれた理由が分かれば、次のチャンスを待つこともできるので……。

わたくしが、人魚に戻るのを待つだけで、あなたは人魚を捕獲することができます。

ます。

見てみたいでしょう？ 人魚の姿を。

ほら、ね。どうかわたくしを、この研究所に置いてください。

蛸井 (ページを拾う) この申し出は非常に魅力的なものでした。ええ、全く、私にはお見通しです、当然のこと。潤教授、貴方は碧の依頼を受けます。絶対に。

潤 君がやったのか。

蛸井 そうとも言えるが、言わないこともできますね。

潤 忌々しいな。

蛸井 え？ 何のことつかねえ、契約には違反していないはずなのに？ 安心してくださいよ。彼女は本物の人魚である……信じる要素は十分あったでしょう？

潤 やれ、私もし人道に反していないならば、その要素を理由に彼女を囲わなければならぬ。だから忌々しいと言うに。

蛸井 まあ今更！ そんな人だと思わなかった！ しかし、正しい判断です。さすが！。

潤 そもそも、

蛸井 はい？

潤 なぜ、あの人魚は人間になりたかつたんだ。

蛸井 いやっすね、教授。人魚が人間になりたがる理由なんて、古来より一つしかないでしょう？

アコヤ 碧さんは、どうして人間になりたいんですか？

碧 よくぞ聞いてくださいました！

わたくし、人間に恋をしてしまったのです！

#### 〇四

碧 あれは一週間前のこと……まだ人魚であつたわたくしは、海の中から海岸を眺めておりました。

アコヤ 地上に憧れていたんですね。

碧 すると突然、叫び声が聞こえてきました。

アコヤ 海岸の、崖の方からですね。

ペリカン 風のバカヤローローロー！！！！

アコヤ以外 え？

碧 見ると崖の上で、沢山の白い紙が風に吹き飛ばされていきました。右へ、左へ、鳥の羽が降るかのようには海に落ちていきます……と、そのとき。ああっ！ 崖

の上から人間が！

ペリカン うわあああああああ！

ペリカン、両手に白いA4用紙を何枚か持って、手をバタバタとさせる。

蛸井 落下する彼と目が合います。

碧 ドキンッ(心臓の音)。

ペリカン ドキンッ(心臓の音)。

蛸井 しかし、男はそのまま溺れてしまう！

ペリカン ごぼぼぼぼ……。

碧 死んでしまいます！

わたくしは彼を救い上げ、崖の下の岩場まで運びました。岩場には昼寝をしている人間がいて、その人に介抱を託したのです。

蔵狩 (起きる) 人がいる。おいつ、起きろ。生きてるか？

ペリカン 生きてる！

碧 よかった！

蔵狩 何してんだよ。あんた、水鳥ペリカンだよな？

碧 水鳥ペリカン様、というのですね！？ あの方は、空を飛べる種類の人間なのですか！？

音無 飛んでなかったよ。落ちてたよ。

碧 いいえ、飛んでました。本人もそう言っただけじゃありません。

ペリカン ちょっと崖から落ちました。

蔵狩 なんで？ 空飛べるとでも思ったんか？

ペリカン ええ、ペリカンですからね！ はは！

音無 そういう意味じゃないよ。

アコヤ でもでも、まるで人魚姫のお話そのものですね！ 海に落ちた王子様を助ける人魚姫。碧さんも、彼が海に落ちる瞬間に、恋に落ちていましたね！

照山 ドキンッ！

アコヤ ドキンです。

碧 はい。あの時気付いたんです。彼は天使なんです。

皆 ううん(否定)。

碧 白き翼のガブリエルとは、ペリカン様だったんです！ もしわたくしがマリアなら、彼はこちらを斜め上から、慈愛の瞳で見下ろした。聞いてください。体内に魂が産まれたのを感じたのは、この瞬間だったのです。だからわたくし思うのです。あの出会いこそ、『受胎告知』だと！

潤 なるほど、つまりそこで……。

碧 わたくしは恋に落ちたのです。

潤 そうじゃなく……。

碧 でも、ペリカン様は落下のショックで、わたくしのことを忘れてしまったようでした。

ペリカン まあいいや、あなたが助けてくれたんですね？

蔵狩 いや。

ペリカン またまた、あなた以外誰もいないじゃないですか。

蔵狩 誰もいないってことは……俺が助けたかもしれない。

ペリカン ありがとうございます！

碧 ……、違います！

アコヤ そつか、だから人間になってペリカンさんに会いに来たんですね。

とところで、ペリカンさんって誰ですか？

音無 ああ、村役場の職員さんだ。この研究所は村の土地を借りているから、時々査察に来られるんだよ。そうだ、碧さんがペリカン君と出会ったのも、彼が査察に来た日だと思われる。

照山 バサバサバサ！

音無 例えば、件のA4用紙は、この前潤教授が窓から放り投げた、研究所への抗議文書と学会に突き返された論文の束。

潤 確かに一週間前、私はその窓からその、研究所の撤退を求める文書等(とう)を捨てた。水鳥ペリカンは、捨てられた文書を追って外に出ている。

照山 ばしゃん。

蛸井 で、落水した。

アコヤ ああ！ 言われてみれば、研究所の裏には海に面した崖がありますね。え

え！？ 今の話は、すぐそこで起こった事だったのですか？

碧 そのようですね。

音無 もう一つ。こちらの昼寝男は蔵狩。いつも査察を面倒臭がって、崖下に逃げているからね。

蛸井 蔵狩がいたらすぐに確認できるのに、どこいったんでしょうね。

潤 ああ。現状、今の話の真偽は、水鳥ペリカンにしか確かめられない。

蛸井 はは、蔵狩の優先度、すっかり低くなっちゃいましたね。

潤 は？  
音無 あ、教授！ ペリカン君、今日来るって。  
蛸井 おっ、ナイスタイミング。  
碧 水鳥ペリカン様に、会えるということですか！？

○五

ペリカン たのもうー！ー！ 村役場の水鳥ペリカンです！  
蛸井 噂をすれば。

やあやあ、一週間ぶりですね！ お待ちしてましたよ。

ペリカン あー、ほんとですか？ 光栄ですー！

蛸井 嘘です。

ペリカン なーはっはっは、また蛸井さんったら手厳しい！ ねえ、教授。

潤 蛸井にはいつも助かってます。

ペリカン うーん、言いくいことをはつきり言うからですかねえ？

いや、いいんですよ？ そりゃあ、こいつのことを思えば、歓迎されな  
いのも納得ですからー。（紙の束を振りながら）

潤 といいつつ、今日ばかりは、本当に水鳥さんを待っていました。

ペリカン えっ。そりゃ、なんだって僕なんかを？ 別に、いい話を持ってこられ  
たわけじゃないんですか……？

蛸井 ペリカン君、ひとまず座ってくださいな。潤教授から、君に質問があります。

ペリカン な、何です仰々しい？ えー、じゃあ失礼して……（座る）。……あ  
れ？ 見慣れない顔がいる。

アコヤ あつ、あたし、子安貝アコヤと言います！ 今週からこの研究所に配属に  
なりました！ よろしくお願いします。

ペリカン あ、ご丁寧に、どうも、水鳥ペリカンです。……よかったじゃないです  
か教授、かわいい子増えて！

潤 先週、あなたの相手をしている間に、断り損ねまして。そう、あの日のことを  
お聞きしたいんです。まず、彼女に心当たりは？

ペリカン 彼女？

碧 あの、……覚えてらっしゃいますか？

ペリカン ……ないですね……。

碧 そ、そうですか……。

潤 では、あの日崖から落ちた後、誰に助けられましたか？

ペリカン それは、蔵狩さんですよ！ 話には聞いてはいましたが、ほんとに磯で寝  
てるんですね。

蛸井 ふむ、碧さんの話は、どうやら事実のようですね。

アコヤ ということは、やっぱり本当に人魚……！

ペリカン　ほんとうににんぎょ……？

アコヤ　はい！　実は碧さん、元は人魚なんです！　ペリカンさんに会った時点で

は、まだ下半身は魚であつたはずですよ。ですよ、碧さん！

碧　はい。

アコヤ　碧さんの人魚姿を見られたなんて、すつごく羨ましいです！

ペリカン　そんなこと言われても、僕覚えてないですよん。

潤　本当に記憶がない状態か。十分な証拠にはなりませんね。

碧　でも……。

蛸井　でも、他に何を聞けばいいんすかねえ？

音無　あ、じゃあ、はい。ペリカン君って、魂を人に移植できたりする？

照山　ぱくつ。

ペリカン　え？　できませんけど？　さつきから何言ってるんですか？　僕に研究

のこと聞かれても全然わからないですからね！　僕にできるのは、こつ

ちのサポートだけです。

アコヤ　その文書は何なんですか？

ペリカン　全て、村の人たちから届いた、研究所へのクレームですよ。夜中まで電

気がついてるとか、宗教染みた掛け声が聴こえるとか。

蛸井、ペリカンから文書の束を受け取る。

音無　えー、住宅地からは離れてるでしょうに。

蛸井　音無さんが変な掛け声作るからですよ。

アコヤ　あ、あれ音無さんが作ったんですか？

照山　キーン(アラレちゃん)

文書、蛸井から照山へ(さりげなく)

ペリカン　いやね、はつきり言つてこの研究所、潰れかけなんです。元々は、この

地域に伝わる人魚伝説にちなんだ研究プロジェクトで、村興しを期待し

てたんですが、なかなか実りもなく。そうなってくると、財政を圧迫

するだけのお荷物になるでしょ。すると、みんなここを敵視するわけ

ですよ。村人も、村役場もね。

アコヤ　敵視つて、あたしたちが悪者、つてことですか？

ペリカン　まあ、こつちも無理を言っている自覚はあるんで、「研究所として成果

を出せば存続できる」という条件を提示したわけですが。このままだと

本当に、撤退が濃厚ですよ。

蛸井　濃厚だろうがノーコンだろうが、教授には関係ないですよ。ねー。

潤 もう一つ聞いてもいいでしょうか。

ペリカン 話聞きませんよねえほんと。

潤 あなたの後輩に、海鵜みうという女性がいたでしょう。

ペリカン 海鵜みう。

アコヤ 海鵜みう？

照山 うみうみう！！

音無 うわびつくりした。

潤 彼女の搜索はどうなっています？

ペリカン そつ、えつと……ちよつと待ってください。

アコヤ 後輩さんがいたんですか？

蛸井 うん。前はペリカン君と一緒に来てた。

碧 失礼ですが、搜索というと、行方不明とされている、ということでしょうか？

蛸井 そうですよ。一か月ほど前、突然いなくなったんです。

ペリカン 確認しました。海鵜の搜索は警察に任せていたんですが、見つからない

ままです。でも代わりがいるし、いなくても回せない仕事量じゃないので、特に困ってないですよ。

アコヤ え？ あの！ 人が行方不明になってるのに、そつけなすぎると思います。

心配じゃないんですか？

照山 どんどん！

アコヤ 照山先輩も、そう思いますよね！

ペリカン 心配？ あー、そんな時期はもう終わっちゃいましたかねー。

アコヤ なんてこと……。

照山 ペけぽん……。

ペリカン でー、海鵜が、どうかしました？

潤 海鵜さんというか、うちの蔵狩深海が、今朝からいません。探そうにも、宛てが無いので困っているんです。もしや、海鵜さんと同様の事故にでもあったかと思っただんですが。

ペリカン ああ……、そりや、ご期待に沿えず申し訳ない。でも、いい線いってるかもしれないですね。実は海鵜のこと、あまりに見つからないものだから、野生動物に食われたんじゃないかって説も出てるんですよ。

アコヤ・照山 キャー……！

ペリカン 本当に何かいるのかもしれないですね、人食いイノシシとか。

アコヤ・照山 キャー……！

蛸井 動物が蔵狩なんか食べるかなあ？

アコヤ キャー……！ なんて縁起でもないことを言うんですか！ やめてくだ

さい！

照山 ばくう！

音無 ばくうって。……今日はよく喋るね。

ペリカン 蔵狩さんなら、今日も磯で寝てるんじゃないですか？

蛸井 それにしちゃあ、朝っぱらからいないのはおかしいでしょ。しかも、何度か  
けても電話に出ない。

ペリカン ふむ……でしたら、僕も見回ってみますね。村の人らにも、心当たりが  
ないか聞いてみます。

潤 よろしく頼みます。

ペリカン じゃあ、ひと段落したところで、こっちの話に移って大丈夫ですかね。

潤 なんのことですか。

ペリカン あんた、自分の話したら終わりだと思ってるでしょ！ 僕は今日、そろ  
そろ本気で何かしないとだめですよって言いに来たんです！ 一週間で  
クレームがこんなに集まってちゃ、僕だって誤魔化しきれませんよ！  
……って、あれ？ そういえば、あの文書の束は？

蛸井 ん？

ペリカン 蛸井さんに見せましたよね？

潤 照山。

照明卓の裏から紙飛行機が飛んでくる。  
と思つたら、大量の紙飛行機を抱えた照山が出てくる。

照山 キーン！

アコヤ ああ！ その紙もしかして！

ペリカン な、何やってんだあんた……！！！！

照山 キーン！！！！

音無 すごい照山。いっぱい作ったね！

ペリカン じゃね……！！！！ 全部公的文書ですよ！ なに……こんなに丁  
寧に折っちゃってこら！

音無 おい！ なに怒鳴ってるんだ！ 照山さんだぞ！

ペリカン 知らねーですよ！ 村人からの大事な申立書！ あんたら、真面目に向  
き合う気がないならさすがにフォローできませんからね！

蛸井 でも今日は仕方なくない？ ペリカン君は、文書じゃなくて、紙飛行機の材  
料を間違えて持ってきちゃったんだよ。

ペリカン は、はい……？

蛸井 ペリカン君はね、今日文書じゃなくて、紙飛行機を持ってきたの。

ペリカン ……は？

潤 正直ね、知ったことではないですよ。うちは研究機関だ。そりゃ成果がなけ  
れば追い出されるでしょう。しかし、何が成果なのか、何のために研究するの

かすらご存知ない人々に否定されても、我々は意に介さない。ここにあるのは、公的文書ではなく、ただの紙飛行機ですしね。

潤、飛行機を一つ取って窓の外に飛ばす。

ペリカン ああー!!!

蛸井 さすが、飛行機にするとよく飛びますね。

ペリカン ま、まずいでしょう……。とりあえず今日は、紙飛行機 of 材料を持ってきただけってことにしときます。

蛸井 言質取ったり。

音無 録音、オーケー!

ペリカン ただし、教授の言うこともわかりますけどね……。研究界隈の常識が、一般社会で通用するとは思わない方がいいですよ。そっちらから何か伝えてもらわないと、こっちは何もわかんないんですから。

潤 ……ええ(飛行機を飛ばす)

ペリカン ひえっ! 全部飛ばされる前に、今日のところはひとまず帰ります!

碧 あっ! あの、水鳥ペリカン様!

ペリカン あ、えっと、なんでしたっけ?

碧 わたくし、あなたに会いたくて――

ペリカン すいません、ほんとに何にも覚えてないんで!

碧 えっ……。

ペリカンはける。

アコヤ ……覚えてないからって、あんな態度はないんじゃないでしょうか。海鷗

さんのこともそうですけど。……碧さん、大丈夫ですか?

碧 ……はい。

潤 ……子安貝。

アコヤ はい、なんででしょう?

潤 碧さんの面倒は君が見なさい。

アコヤ えっ! いいんですか!

潤 今のところ、彼女の話を聞きたいと言ったのは君だけだろう。好きにしなさい。あなた、我々の研究に役立つんですってね?

碧 は、はい。もちろんですわ。

アコヤ 碧さん、あたし、頑張ります! どうして碧さんに魂が生まれたのか、絶対解き明かしてみせますね!

碧 ……よろしく願います。

蛸井

どうかこうにか、ここまで順調！ 私は最初のきつかけを作っただけで、あとのことは知らんぷり。幸か不幸か、それなりに器用だったようで、上手くいっているようで何より。(ページを拾う)

さてよりさてより、子安貝と碧は、村の人魚伝説を洗いにお外へ、居残り組は、蔵狩の捜索へ……と思いきや。ここでは、誰も研究所から出なかつたんだよね。なぜなら、もうわかつていたんだ。蔵狩を探しに行っても無駄だつて。どうして？ 人間の手に負えるものではないからさ！

(ページを拾って捨てる) ページめくって、番外編は非公開としようじゃないか。しかし、あなたにだけは伝えよう。教授、私の正体を知り、人魚を欲したあなたにね。

そんな顔をしないで。夜中の悪魔の、怖い話じゃないですよ。ただ、夜より暗い、海の底。

〇六

海底、人魚姫の宮殿。

マーメイドトリオ first シングル 『PRINCESS MERMAID』が流れ出す。  
曲に合わせて、シイラ、みう、ホヌが登場。

《歌詞》『PRINCESS MERMAID』

※歌い分け

シイラ 首から繋いで 乱暴に引き寄せて

溺れるような艶で 唇を彩る

みう・ホヌ (Princess mermaid)

みう 泡が浮かんでく 導かれる予感

道先沈んでく 楽園が広がる

シイラ・ホヌ (Princess mermaid)

ホヌ 僕のためにあるここを あなたのために守ろう

ホヌ・シイラ 傳く瞳に

みう あなたを

三人 たたえよう

三人 海底に歌声響かせ 寂しさを忘れさせる

シイラ 光もない

みう 風もない

ホヌ ここはプリンセスパレス

三人 永遠に時は止まり 陸では忘れ去られ

シイラ 鎖繋ぎのアンセム

三人 君は Princess mermaid

曲終わり。

シイラ あんたたち、そんなのでいいと思ってますの？

みう これで人魚姫を満足させられるのかって聞いてますのよ、ええ！？

シイラ そんなこと言ったって、元々は碧さんのパートで……。

みう うるさい！ みう、あんたは別に、碧の代役で入ったわけじゃないですわ。

人魚姫があんたを気に入ったから、ここにいるんですの！ 姫の期待を裏切るようなこと、二度と言うんじゃないですわ！

みう ひゃあああ……。

ホヌ シイラ、みうは新人なんだから、それくらいにしてやったらどうだい？

シイラ ホヌ、何を他人事みたいに言ってますの。最後のステップ、少し遅れましてわよね。

ホヌ そりゃ、移動が長くて……はいはい、シイラの言う通り。練習しますよ。

シイラ じゃあ、サビの途中から、もう一回。

みう・ホヌ はい。

三人、配置につく。

シイラ ……みう、どうかしたの？

みう うーん、何だか近くで、知らない匂いがしませんか？

ホヌ なんだった？ 宮殿には、僕たちと姫しかいないはずだよ。

蔵狩 ……あの。

三人、声がした方を振り向く。蔵狩が登場した所。

三人 きゃあああああああ！

蔵狩 わあああああああ！

シイラ ……すみません。ここは、どこですか？

みう よ、よそ者ですわ！

ホヌ 曲者ですわ！

ホヌ ちょっと待つんだ！ ここは海の底、住んでいる生き物は限られている。

シイラ と、いうことは……。

三人 人魚？

蔵狩 いや……、人間っす。

シイラ ……なんだ、新入りの人魚のようすわ。

ホヌ 迷い込んでしまったんだね。

みう びっくりしました。

蔵狩 いやだから、人魚じゃないです。え？ 何、人魚って？

ホヌ 可哀そうに、何もわからないまま人魚になったんだね。

みう みうとは違いますう……。

シイラ よし、せっかくだから、あれをやるわよ。

マーメイドトリオ、中央にスタンバイ。

ホヌ 人魚姫に選ばれて！

みう 人魚姫のために歌い！

シイラ 人魚姫の心を守る！

三人 我ら、人魚姫三銃士！！

蔵狩 ……え？

ホヌ 海底の！

みう 人魚のための！

シイラ 人魚姫による！

三人 楽園！

蔵狩 ……ここは海の底じゃない。息ができる。

ホヌ それはね、ここが、普通の海じゃないからさ。

シイラ ここは、マリアナ海溝よりずっとずっと深い場所。一周回って、人間の夢とつながった、イメージの世界なのすわ。

みう そして、息ができるというのも気のせいすわ。だって、あなたはもう、人間ではありません。

三人 魂がないのですから。

蔵狩 魂がない？ 何言ってるんだ。

シイラ 魂がない、そのまんますわ。

みう みうたちにもありません！ 魂をなくして、人魚になったのです！

蔵狩 そうだ、仮にここが海の底だとして、あんたたちが人魚だというのが信じられない。

シイラ　しょうがない、恥ずかしいけど……見せてあげましょう。

シイラ　わたくしには背びれが！

ホヌ　僕には鰓が！

みう　みうには鱗が！

蔵狩　はあああああ！？

ホヌ　そして君にも……

蔵狩、全身をまさぐって確認、衝撃を受けた顔をする。

蔵狩　魂を失った結果、人間としての形を失い、魚の特徴を持つようになる……。

シイラ　ふむ、大体合ってますわね。どうしてわかりました？

蔵狩　後輩の考察です。絵で描いたような人魚とは違うけど、それが逆に本物らしい。

みう　考察？　本物？　ああっ！　あなた、人魚实在可能性研究所の、蔵狩深海さんですね！

蔵狩　なんでそれを？

みう　初めてお目にかかります！　水鳥ペリカンの後輩だった、海鵜みうです！

蔵狩　……あ、

みう　記憶になさそうですね。でも構いません、みうにはもう関係ないことですから！

蔵狩　俺と同じ、元人間？

ホヌ　僕もだよ。

シイラ　わたくしもですわ。そしておそらく、人魚姫もですわ。

人魚というの、魂を失くした人間のことですの。

みう　あ、人魚姫がおいでですわ。

シイラ、ホヌ、みう、人魚姫を出迎える配置につく。

曲と一緒に人魚姫登場。

人魚姫

（歌）漣の聞こえる丘の上で日光を浴びて寝転がりたい  
そんな夢はもう捨てたの  
欲しいのは懐に抱いた妹たちだけ……

（歌無し）いい子にしていたみたいね、あなたたち。すぐに、首輪を着けてあげますわ。

シイラ

人魚姫！

みう 人魚姫！

人魚姫、シイラ、みう、ホヌに、順番に首輪をつけ始める。首輪には鎖がつながっており、犬のリードのように人魚姫が持つ。

人魚姫 順番よ、三人とも。ほら、シイラが先でしょう？ あなたが一番重症なんだから。

シイラ はい、とつても幸せです、人魚姫。わたくしはもう、首輪がないと生きていけません。この瞬間が、一番、あなたのために生きていることを感じられる……。

どうか、もつと強く引つ張ってくださいませ。

みう だめです。シイラさんばかりずるいです。

人魚姫 慌てないで、人魚の時間は長いんだから……

(歌) 悠久の時も感じない 光のない世界なら

互いの瞳が生きている証 どうせそういう性質なもの

(歌無し) できた。

ホヌ (歌) 僕のためにあるここを あなたのために守ろう

人魚姫 (歌) そばにいてほしいなら いったっていてあげる

代わりに、必ずそばにいて わたしのもとから離れないで

海底に歌声響かせ 寂しさを忘れさせる

わたしの城 わたしの妹たち

Princess Mermaid

蔵狩 何で歌うんだ。

人魚姫 ……知らないやつがいるわ。

ホヌ 申し訳ありません、人魚姫。新入りのようで、どうやら迷い込んできたようです。

人魚姫 そう……、初めまして。ようこそ、わたくしの城へ。

なぜ歌うかと聞きましたわね。もちろん、人魚とは、歌うものだからですわ。人魚のお話を思い出してみなさい。きっと、歌が上手いイメージがあるのではなくって？

蔵狩 そんなイメージがあるからって、そうある必要はないでしょう。

人魚姫 何もわかっていないようね。あなた、望んで人魚になったわけではないでしょう。……そうか、碧の食べ残しね？

シイラ 碧の？

みう きゃあ！ 碧さん、本当に人の魂を食べて、人間になったんですね！

ホヌ そう思うと、愛着がわくね。

蔵狩 待って、わかりません。俺の魂は食べられたんですか？

人魚姫 あなた、海の夢を見たのではなくて？

蔵狩 え？ はい、磯で寝るのが日課なもんで……。

人魚姫 やはりね。海の夢をよく見る人は、人魚の餌食になりやすい。なぜなら、我々は夢の中で、人間の魂を奪うことがあるから。もちろん、こちらの二人のように、自分で魂を取り落としてしまうこともある。奪われるか、取り落とすか、このどちらの方法だろうと、魂を失くせば人魚になる。

蔵狩 魂を失くすなんて、あるはずがないでしょ。そんなことになったら、死ぬ。

人魚姫 死ななかったのがわたくしたち。だけど、確かに、普通には生きられない。見て、この鎖を、首輪を。これは、わたくしと妹たちを繋ぐもの。わたくしたちは、誰かのためにしか生きられない。自分のために生きられないの。魂を失うとはそういうことよ。魂を……自分を失ったものは、人魚になる。首輪をつけると求められている気がします。

シイラ

みう みうは、人魚姫のものになりました。

ホヌ 同時に、姫だって、僕たちがいないと生きられないんだ。

蔵狩 わからない……今だって、変態プレイにしか見えない。

人魚姫 それはそう。

蔵狩 ただ、あんたらが人魚だったとして、そして俺自身も人魚だとして、一つ、確認しなければならぬことがある。

人魚姫 何かしら。何でも言ってみて。わたくしは、全ての人魚のためにあるから。

蔵狩 チョウチンアンコウの人魚は、どこかにいるでしょうか。

人魚姫 ……？ これ(チョウチン)がついてる人魚かしら？ いるかもしれないけれど……、どうして？

蔵狩 俺の、幼少期からの夢は……アンコウの人魚と、交尾して、一体化することです。

人魚姫 ……。

ホヌ あいつの方が変態だよ。

蔵狩 アンコウの生態を知ったときから、羨ましくてしようがなかったんです。アンコウはメスと一つになれるのに、どうして人間はなれないのか。だから俺は決めた、必ずアンコウの人魚を発見すると。発見して一つになる。俺はアンコウのメスになる！ ここにいないなら俺は、どこまでも探しに行くぞ！

人魚姫 わかったわ。

みう わかったの？

人魚姫 今ので確信したわ。あなたは、全然人魚に向いていない。自分のために生きられる人間だわ。数日のうちに魂を取り戻すでしょうね。碧も、本当のターゲットを狙うための中継ぎくらいにしか思っていないはずよ。

蔵狩 そんな、困ります！ 今がチャンスなのに！

人魚姫 あなたみたいなのを懐に置く、わたくしの方が困ります！  
ちよつとぞわつとしてきたわ。ぎゅつとして。

シイラ ぎゅつ。  
みう ぎゅつ。

人魚姫 数日の間野放しにしておくのも不安ね。ホヌ、あいつを閉じ込めておきなさい。

ホヌ 承知しました。

蔵狩 うわつ、放してください！

ホヌ ノン。

人魚姫 いいわね、魂が戻るまで、その場で大人しくしているように！

人魚姫、シイラとみうの鎖を引いてはける。

ホヌ さあ、ここでいい子にしているんだよ。

蔵狩 変なことを言ったのは謝ります。大人しくしているので出してください。

ホヌ そう言って逃げるつもりだろう。僕には、お見通しだよ☆

蔵狩 なんだそれは……。

ホヌ だいたい、逃げてどうする気だい？ 海は広い。アンコウの人魚とやらを探すのは無謀さ。それなら、ここで姫の相手をしていた方がよほどいい。

蔵狩 無謀でも関係ないんですよ。関係ないから研究所にいるわけ。それが俺の夢だから、つて言ったら、わかってもらえます？

ホヌ わからないね。僕は夢を捨てたんだ。捨てたから、ここに来れた。君にこそ、

僕の気持ちがわかるかい？

蔵狩 いいえ。夢を捨てて楽しいんですか？

ホヌ 楽しいのかと来たか、本当にわかってないようだ。いやしかし、そうだね。

人が期待する僕になること、それは楽しいことかもしれないよ。人は人のためになら生きられるということさ。しまった、人魚は、だね。

意味がわからない。

ホヌ つまり、僕が踊れば人魚姫が歌ってくれる。そういう関係ということさ。

蔵狩 は？

ホヌ ひどく塩対応だ。僕は男の子が来てくれて嬉しかったというのに、やはり人魚には向いていないんだね。

アン、ドウ、トロワ。鎖が邪魔だ☆

姫に端っこを持ってもらうことにするよ。それじゃあね。

ええええ、ちよつと、ほんとに閉じ込めるんですか？

ホヌ そうだ、蛸が来ても相手しないように。アデュー☆

蔵狩

え、蛸？ 蛸ってなんですか！？ ……これから、どうしたらいいんだ……。俺は、ここに来た経緯を思い出していた。正直、頭はぼうつとしていて。魂がないなんて、信じられない。でも、体に……。腹に、でかでかと開いた、魚眼。丸くて黒くて濡れた目が、不遜な態度で、見返してくる。

なんなんだよ、俺の体だぞ！

俺は、ここに来た経緯を思い出していた。人魚になれたら、なんて、変な後輩の影響か、少し思った記憶がある。俺がなりたいたのは、アンコウのメスだけど……。え？ 違うな。なんだっけ。それは、手段だ。目的は？ 思い出せない……。

なんで？ なんて思い出せないんだ？ 大事なことなのに。俺の夢なのに！ 知識みたいだ。俺の中に今あるのは、俺の夢の情報だけだ！ ……気持ちはない？ 感情は？ 俺自身はどこいった？

ない！ ない！ ない！

返してくれ！ 俺を返してくれ！

俺は思い出していた。おそらく昨夜のことだった。女性が夢に出てきたんだ。人魚です。人魚の碧と申します。ペリカン様を助けたのはわたくしです。いただきます……。

〇七

村の海岸。アコヤと碧が並んで話している。

舞台の前方で、釣りをしている人がおり、舞台後方にアコヤと碧。

アコヤ

この村の人魚伝説は、ちょっと変わってるんです。

曰く、「不幸になった人間は、人魚になる」。

変わってますよね。

碧

そうですね。そういう文脈で言うとき、例えば、「嘘をついた者は、舌を抜かれる」というように、罪と罰の関係になるはずです。不幸になるのに、人魚にまでなるなんて……。人魚になると不幸になる、なら自然ですが。

アコヤ

人魚になるのは、悪いことじゃないですよ。

碧

失礼しました。アコヤさんにとっては、そうでしたね。よろしければ、人魚になりた理由をお聞かせ願えますか？

アコヤ

小さい時からの夢なんです。絵本で読んだ人魚のお話が、綺麗で、大好きで……。子どものような理由なんですよ。こんな歳になるまで、恥ずかしいとは思いますが。でも、研究員にまでなっちゃいましたから、あきらめませんよ。

碧

大変ではありませんか？ その……夢を追うというのは。

アコヤ

オカルト学会は変わり者の集まりですからね、学会の外よりは楽だと思っ

ます。でも、潤教授みたいに、勝手気ままにやっていたらだめですよ。だから、学会に煙たがられているんですよ。

碧 アコヤさんには、それが好ましいんですね。

アコヤ はい！

あつ、第一村人発見です！あの人に聞いてみましょう。すみません、研究所の者です！

釣り人 ……人魚？

アコヤ 村の人魚伝説について、調査しています。人魚から人間になった人の話を聞いたことはありませんか？

釣り人 ……魚いる？

アコヤ えっ！ありがとうございます！

釣り人 ……人魚なんていいもんじゃないぞ。道を間違えたやつらだ。

アコヤ もしかして、詳しいんですか？

釣り人 そりゃあね。おれは嫌になって逃げ出したんだよ。都合いいのを食わせてもらってなー。

アコヤ えっと、どういうことですか？

釣り人 でもなあ、結局釣りしかやることないんだわ。正直、どっちでもよかったなあ。

碧 ……。

釣り人 人魚伝説だった？ そんなん、村の人間でも詳しいやつなんか、今更いねえよ。研究所の方が、沢山知ってるくれえだろ。

アコヤ あ、やっぱりそうですよね。

釣り人 ああ、でも、人魚になったやつらの墓だっという遺跡？ あれはいいところだぞ。本物かどうかしらねえが、散歩するにはちよーどいい。

アコヤ 遺跡なら、資料で場所は知ってます！

碧 人魚になった方のお墓ですか？

アコヤ そうです。せっかくですから、行ってみましょう。そこで、もう少し考えてみます。碧さんに、なぜ魂が生まれたのか！

碧 はい。

アコヤ では行ってきます。おじさん、お魚ありがとうございます！

釣り人 おう。

アコヤ、去っていく。

碧 人間になって、よかったと思いますか？

釣り人 ……あんたそれ、色の悪いの選んだな？

碧 これは急ごしらえで……え？肉眼で魂が見えるというのですか？

釣り人 修行して。

碧 ……そうですか……。

釣り人 あんまり悪いことするなよ。人間に迷惑をかけるんじゃない。

アコヤ 碧さん？ 行きますよ。

碧 はい、只今。

半端者に言われたくありません。

アコヤ、碧、はける。

釣り人 ……怖い人魚だなあ……。

〇八

遺跡。

山の中、石碑のようなものがある以外、特に何もない。

アコヤ ここですよ。「人魚ニ墮チシ者ノ碑」です。石碑以外、特にありません。

碧 はあ……、殺風景ですね……。

アコヤ すみません！ 人魚の碧さんに、山道はキツかったですでしょうか！

碧 大丈夫ですよ。

遺跡の近くに二人で座る。

碧 わたくしは、この魂、恋心から生まれたものと思っておりますわ。

アコヤ あたしもそう思います。魂は、心に大きく関わっていますから。でも……、

碧 ……？

アコヤ 碧さんは、それだけ大きく心が動いたのに、ペリカンさんは碧さんと、ち

やんと会話もしませんでした。

碧 それは……。

アコヤ ひどいことだと思います。

碧 いいえ。一方だけが思い詰めているなんて、よくあることだと思いますわ。わ

たくしが、期待しすぎでした。

アコヤ 碧さん。

碧 でも、ありがとうございます。アコヤさんは、心が綺麗なのですね。そんな方

の魂は、どれほど美しいのでしょうか。

アコヤ 照山先輩には、すっごく褒めてもらいましたよ！

碧 いいですね。心が綺麗な人は、人魚に向いているといいます。

アコヤ そうなんですか！？ そっか、だから、慰霊碑が建てられたんですね！

碧 え？

アコヤ 心が綺麗な人は、人に慕われると思います。伝説上で、人魚になったという人も、そういう人だったんですよ！ だからこそ、慰霊碑が建てられたんですよ！

碧 これは、慰霊碑なんでしょうか。

アコヤ はい？

碧 「人魚に堕ちた」と書かれています。まるで、罪を償えと言われていたようです。

アコヤ 人魚になるのが、罪ですか……？

碧 さて、よくわかりません。わたくしには関係のないことです。

アコヤ そ、そうでした！ 碧さんは、人間になりたいんですもんね！ あたしも、引き受けたからには、絶対に碧さんの魂の出所を明らかにしますよ！

碧 今更ですが、研究所の皆さんに頼んだこと、ご迷惑だったでしょう。

アコヤ え！？ いえいえ、そんなことはありません！ 碧さんはちゃんと、あたしたちにも利益を示してくださいました！ 碧さんが来てくれて、人魚研究はやつと先に進めそうです！

碧 やはり、人魚を研究するのは難しいですか？

アコヤ そんなことないですよ。ただ、オカルト学会の主流とは、ちよつと外れたことをやってるってだけで……あれ、それって難しいことなんですかね？

碧 水鳥様とのお話し合いを見ると、ご苦労されているように思いましたよ。

アコヤ あは、やっぱりそうですよね。

碧 それでも、敢えて人魚を研究するんですね。それが夢だから、ですか？

アコヤ そうですよ！ 諦めたくないんです！

碧 いいですね……。夢は、可能な限り追いかけていけるものです。

アコヤ はい、そう思います！

もつと世の中のためになることを研究した方がいって、言う人もいます。でも、あたしはどうしても、これがやりたいんです。この世に必要な研究はない。そういつて、最後のチャンスくれた場所が、潤教授の研究所なんです。

碧 アコヤさんは、ご自身の夢を、とても大切になさっているんですね。

アコヤ はい！

碧 もしアコヤさんにその日が来れば、きっと素敵な人魚になれるはずですよ。

アコヤ ……はい！ 絶対に、なってみせます！

碧 ……あの、アコヤさん。

アコヤ はい？

碧 わたくしの夢の話も、聞いてくださいますか？

アコヤ もちろんです！ なんでも聞かせてください！

碧 わたくしの夢は、昔話の人魚のように、人間になって、恋をすることです。  
アコヤ つてことはもしかして、今叶ってるんですか！？

碧 でも！ この魂は、まだ仮初のものにすぎません。

アコヤ あっ、そっか……碧さんは、数日後、人魚に戻ってしまうんですね。

碧 ……研究所ではああ言いましたけれど……建前なんです。本当は、人魚になんて、戻りたくないんです。

アコヤ あの、それって……。

碧 わがままを言っでごめんなさい。けれど、せつかく生まれた魂を、この恋を、失いたくない。アコヤさんなら、わかってくれるかと思っ。

アコヤ もちろんです！ 碧さんの夢は素敵で、あたしも協力したいと思います。

でも……、研究所のみなさんは、碧さんの人魚の姿を期待していると思います。それに、魂の定着となると、病院みたいな仕事になっちゃいますから……教授はいい顔はしないとします。

碧 それなら、アコヤさんだけで、こつそり助けてくださいませんか？

アコヤ あ、あたしだけで、ですか？

碧 ……やっぱり、アコヤさんも、わたくしの人魚姿が見たいですか？

アコヤ ……いえ！ 人間になりたい碧さんの気持ち、あたしにはわかります！

碧 あたしに任せてください。碧さんを、もう人魚には戻しません！

アコヤ 本当がいいんですか？ アコヤさんの研究からは、遠のいてしまいますよ。

アコヤ 大丈夫です！ あたしには、まだたっぷり時間がありますから！

碧 ありがとうございます。アコヤさん。

アコヤ 夢を追いかけてごめんなさい！

嘘です！ 嘘でした！ あたしに時間は全くありません！ 人魚研究界は、崖っぷちの学問です。自称人魚の碧さん、その存在に縋るほど、結果を急いでいるんです。あたしのせいで碧さんをサンプルとして提出できなければ、いよいよ後がありません！ 合わせる顔がありません！

(ページを拾う) しかしあたしは、これだけ夢を語っているのに。碧さんの夢は応援しないって。聞かなかったことにするって。絶対絶対、できません！

その日碧さんは、研究所にお泊りすることになります。あたしは帰宅していたので、続きの話は先輩から。

## 〇九

研究所。

暗転始まり。中央に碧、まず照らされる。次に、魂観測器の横にいる音無が照らされる。

碧 帰られたのかと思っていました。

音無 俺は魂観測器の傍にいないと息ができない。従って、研究所から出ることはない！

碧 そうなんですか。もう一人の方もですか？

音無 照山は喋れないだけだから、普通に家に帰っている。

碧 そうですか。

照山 しかし今日だけは特別にいる！

音無 えー！

照山 音無は教授から、お前が不審な動きをしないように見張る使命を与えられている。しかし私は、その見張りにつき合うつもりは全くない。

音無 じゃあ何で残っているの？ はっ、そうか、照山が普通に喋っているということはない！

照山 海鵜みうのことで、聞きたいことがある。

音無 魂のことじゃないの？

照山 海鵜みうの魂を食ったのは、お前か？

碧 ……いいえ。わたくしではありません。そちらの犯人には、海岸で会えると思いますよ。みうさんと仲がよかったですか？

照山 別に。ただ、こちら側に来るのを望んでいる人がいれば、……、自殺志願者がいれば、気になるのは当然だ。

碧 ああ、やっぱりあなた、一度はこっち側に来てますよね。

照山 私は、完全に魂を失ったことはまだないぞ。魂を失う直前、その美しさに魅入られた。だから、留まることができた。

音無 すまない……話が見えないんだが。蔵狩の魂の話じゃないのか？

照山 音無。邪魔しないで。

碧 いいじゃないですか。わたくしも、そちらの話をされると思っていましたよ。すぐにばれてしまったようですね。

照山 ……当たり前だ。そんな汚い魂、一度見たら忘れない。お前の中にあるそれは、蔵狩のものだ。欲望まみれの蔵狩だ。

音無 碧さん、蔵狩をどうしたんだ。なぜあなたが彼の魂を持つてる？ まさか死んじやないよな？

碧 どれから教えてほしいですか？

音無 彼は生きてるのか？

碧 生きてらっしゃいますよ。今頃は人魚になっていると思います。

音無 蔵狩、人魚になってるの……？

照山 音無、なぜそつちを訊くんだ。人魚の生態を解明するチャンス逃すなよ。

音無 え？ どういうことだよ。

照山 人魚は、人間の魂を食べるとい話だよ。

音無 ま、まさか、蔵狩の魂を食べたっていうのか！

碧 ご安心ください。蔵狩さんは全く人魚に向いていないので、すぐに戻ってしま  
うはずですよ。最初からそう言っているでしょう？

音無 た、確かに……。でもじゃあ、なぜわざわざ蔵狩の魂を奪った？

碧 彼が海の夢をよく見ていたからです。あと、腹いせに。

音無 腹いせ。

碧 でも、わたくしが本当に欲しいのは、もっと綺麗な魂でした。あの子が、自分  
から魂を手放す気になってくれれば……。夢を手放してくれれば、苦労はありま  
せんが。

音無 その綺麗な魂って……。まさか、子安貝か？

碧 あら、わたくし、そんなこと言いました？

音無 こ、ごさかしい……！

照山 心のまっすぐな子を、利用しないでほしい。みうもそうだった。人のために  
頑張つて、自分を殺してしまつたんだ。

碧 それでも、みうさんはあつちで元気にやっていますよ。

照山 そういう問題じゃない。人間でなくなってしまうなんて……。

音無 なあ、照山。今日はどうしてそんなに喋るんだ？

照山 は？ 何だ、いきなり。

音無 照山は、魂の話しかできないはずだろ。狂つた俺たち、仲間意識があつたの  
に、急にマトモにならないでくれよ。

照山 ……。ピロリ菌？

音無 そう！ それだよそれ！ よかつたー、一人になつたかと思つた！

碧 うーん、あなたもかわいそうな人ですね。危うくて、素質がありそうな。

照山 随分悠長に構えているけど、アコヤにはもう近づかせないぞ。

音無 そうだ、何かあれば資料室に閉じ込めるようにと、教授に言われているんだ  
ぞ。

碧 構いません。

音無 よし！ ちよつとロープ持つてくる！（ページを拾う）

照山 ……なぜ逃げないの？

碧 アコヤさんは、きつと自分から会いに来てくださいます。昼間、二人でお話し  
て確信しました。わたくしは、あの子の心を支えてあげられる。いずれわたく  
ししか頼れなくなれば、あの子は、海の夢を見ますわ。

碧 人魚になるとき、人は海の夢を見ます。

わたくしは、村の有名な画家の家に生まれました。四人兄弟の第三子、親や知り合いの期待を背負った四兄弟でした。

朱姉さん、最優秀賞受賞、おめでとうございます。

蒼兄さん、前回の個展は、好評だったようですね！

桃？ これ、桃が描いたの？ すごいわね、学校で一番だったのね！

わたし？ わたしはね……何も、ないよ。

才能のことではありません。無才は受け入れておりました。わたくしになかったのは、絵を描く理由です。なぜ、わたくしは絵を描くのか。

誰にも響かない絵を、何のために？

好きでもなくなつたことを、どうして？

ああ、そうでした！ 画家のお家に生まれたからです。

定められたわたくしは、幸せ者でした。

突然神の子を授かったマリアは、幸せ者でした。

神の子の母として求められた娘は、絵画の中で幸せに微笑んでいました。

絵画の中と、外のこちらで、何か違いがありますでしょうか。

シイラ ある日の夜、わたくしは浜辺を歩いておりました。

ホヌ 着実に、海が近づいてきます。

シイラ 膝まで浸かった辺りで、水面に服の裾が浮きました。

ホヌ 脳天までゆっくり沈んでいきます。

シイラ なんと、夢の中だったのか。海中で息ができると言えば、夢に違いありません。

わたくしが、重力に従い、奥底に落ちていきます。

ホヌ 見えない力に従い、目を閉じて落ちていきます。

蛸井 魂を失くした人間というのは、可哀そうなものだ。波に逆らうことを知らず、波が何ものかも知らない。魂を失う人間とは、決まって子供のままなのだ。

碧 ここにわたしなんかいない。わたしなんか、どこにもいない。

海の中に沈んでしまえば、あとは落ちるしかないように、わたくしの魂は流されて、人の海に消えてしまった。

わたくしは人魚になったのです。

魂を失って、人の形を取れなくなった人間を、人魚姫は便宜上、人魚と呼んでいるのです。

伝説上の生物から、名前を借りたいため、歌っているのです。

人魚姫

魂がない、空の人形であるくらいなら、人魚と名乗るがいいじゃない。だからあなたもぜび、そうしなさい。あなたがわたくしを愛するならば、わたくしもあなたを愛します。自らを糧にできない子よ、わたくしがあなたの、生きる理由になってあげる。

碧

違います！ わたしはわたしの意思で生きていました。家族の笑顔が見たくて、苦しくても頑張っていたんです。わたしはわたしの大事な人達のため、わたしの意思でやるべき仕事を、頑張っていたんです！

人魚姫

それで、あなたは頑張る以外に、何をしていたの？  
人を愛して堪（こら）える君よ、あなたはあなたの、何を愛して、誰の人生を生きていたの？

その身の最も近くで燃える、たった一つの魂を、車窓の景色を眺める眼中に、たった一度でも収めたか。

暗転後、蛸井登場。シイラ、ホヌ、碧は人魚姫の傍に待る。

明転。

蛸井

愛して愛を求める人よ、愛と言えども他己愛の人、最初に落ちた子どもの君よ。

人魚姫

……。

蛸井

どうも、蛸井陽炎と申します。

人魚姫

わかった、お前、悪魔ですわね。

蛸井

ご明察！ 白魚の手の人魚姫、なぜお分かりに？

人魚姫

タコ、イカ、下郎の三拍子。無駄に自分を貶めるのは、人魚か悪魔のどちらかですわ。

蛸井

またご冗談を！

シイラ

人魚姫、悪魔とは？

人魚姫

さあ？ 人のイメージ通りなら、魂を食べる生き物、じゃないかしら？

蛸井

ええ。

ホヌ

そんな変な生き物が、姫の宮殿に何用だい？ ここには、君の餌になるものはないよ。

蛸井

もちろん。私は食事をしにきたわけではありません。ただ、将来食事にありつくために、人魚を攫いに来たのです。

蛸井、人魚姫に近付こうとする。その前に、シイラ、ホヌ、碧が人魚姫を庇うように立ちふさがる。

蛸井　ちよつとまだ何もしてないでしょー？

人魚姫　何がなんだかさっぱりわかりませんわ。人魚を攫って、どうするっていうの？

蛸井　話すと長くなりますが、要は今の御主人様が、人魚を欲してるんです。

人魚姫　ご主人様々？ それって人間？

蛸井　そりや当然！

人魚姫　馬鹿馬鹿しい！ 追い返しなさい。

シイラ・ホヌ・碧　承知しました。

蛸井　待つて待つて！ 悪い話じゃないはずだ。一体いつまで海の底で燻っているつもりかね。外に出たいとは思わないの？

シイラ　余計なお世話ですわ。姫のために生きる今に満足こそすれ、外に出るなど、願い下げですの。だいたい、人魚は海の底でしか生きられません。攫うなんて不可能ですわ！

蛸井　それだよ問題なのはさあ！ どうしてお前たち、人魚のままでもいいようにする？

シイラ　人間に戻りたいなんて、思つてませんのよ。

ホヌ　そうだよ、人間の魂を奪うなんて野蛮なこと、姫の御前でできやしないさ。

蛸井　姫のため、姫のため、聞いてあきれね。慕う相手すら自分で決めようとなないのか。悪魔から言わせてもらえば、それはあまりにも愚かだよ。与えられたものに従順なことが、賢いことだとも思っているのかねえ。いや失礼、そうでなければ、人魚になつてはいないよね。しかし、人魚になつて尚、学ぼうとはしないんだね。

人魚姫　勝手なことを言うんじゃないやありません。確かに、人魚は一度度が過ぎた者たちだわ。しかし、お前のように自由にやつていては、結局悪魔と呼ばれます。だからわたくしは海底を作った。不器用な子たちが支え合っている楽園を作ったの。悪魔なんてお呼びじゃないのよ。この子たちを傷つけるならこの場で消えてなくなりなさい！

蛸井　うわあああああ(？)

碧　お待ちください、人魚姫！

人魚姫　碧？

蛸井　はッ！ 一体なにが！

碧　わたくしは、人間に戻りとうございます。

シイラ　碧？ そんな、どうして！？

碧　シイラ、ホヌ、二人に反対するわけではございませんわ。わたくしはただ、確

かめたいのです。わたくしたちは、過ちて人魚に堕ちた。けれど、だからこそ人間として正しく生きることも、今ならできるはずです。人魚になるようなわたくしたちでも、人間として生きられないわけでは、決してないはずです。

ホヌ 碧……。

シイラ いけませんわ、碧。わたくしたちの悪い所が出ています。悪魔の戯言に、感化されているだけですわ。

碧 違います。ずっと、思っていましたの。胸の内を明かす時が、今日、訪れただけですよ。

シイラ そんなの、信じられませんわ。姫、碧に間違った選択をさせてはなりません。わたくしたちは、ここにすることが一番幸せです。

人魚姫 碧、わたくしもシイラと同じ気持ちです。……しかし、それは碧を心配しること。真にあなたのためを思うなら、自由にすればいいでしょう。

シイラ 姫！ どうして！

人魚姫 碧が、本当に自ら道を選ぶというなら、碧の体は、魂を欲しているということですよ。人魚に向かない人間を、ここに留めるつもりはございません。

シイラ そんな……。

ホヌ 碧。君は、人間に戻って何がしたいの？

碧 ……わたくしは、恋がしてみたい。自分の意思で、人を愛してみたいのです。

ホヌ それは、ここではできないことかな。

碧 ここでするのは、間違っていますわ。

ホヌ そう……。

蛸井 そんな顔でにらまれても困る。私だって、こんな急展開は予想してません。いやあ、好都合ですね。こちらの人魚なら連れ去ってもいいと。

碧 ただし、わたくしに、人間として生きるチャンスをくださいませ。わたくしは、わたくししで、生きてみたいのです。

## 〇 十一

研究所、朝早く。

アコヤ、勝手に魂観測器を操作しようとしているが、使い方がわからない。

アコヤ うーん……？ あつ、こっちか！ 違う？ えっと？

音無 ああー！！ 子安貝！！

アコヤ わああああ！ 勝手に触ってすみません！

音無 いや、それはいい！ ロックがかかっているからね！

アコヤ ええ！？ そんなあ！

音無 心配していたんだぞ！ 今日、姿が見えなかったらどうしようかと思っ  
た！

アコヤ あたしが、どうして？

音無 そりゃあ、碧さんに魂を……、

はっ！ そうか！

子安貝は人魚になりたいいんだった。魂を食べられると人魚になってしま  
うことを教えると、自分から食べられに行ってしまうかもしれない！ 黙っ  
ていた方がよさそうだな……。

アコヤ 音無先輩？

音無 ああ、何でもない。それより、子安貝はこんな朝早くから何がしたかっ  
たんだ？

アコヤ

実は、碧さんの魂のデータをこっそり見たかったです。朝なら誰もいな  
いと思っただんですけど、音無先輩が……そっかあ……。

音無 そんな反応するなよ、悲しくなるだろ。データなら言ってくれば見せるの  
に。研究に必要なのか？

アコヤ あっ、えっと、そうです。

音無 教授はああ言っていたものの、俺としては、碧さんのことはもう放っておい  
ていいんじゃないかと思うぞ。蔵狩の二の舞にはなりたくないだろう。

アコヤ 蔵狩？

はっ、しまった！

アコヤ そういえば、先輩方は蔵狩先輩の捜索に出ていましたよね。何か、進捗は  
ありましたか？

音無 あ、いや、何でもない。蔵狩のことは不幸な事故だと思って、子安貝は碧  
さんに集中しろな。

アコヤ え、どっちなんですか？

音無 あわわわわ。

アコヤ なんだか様子がおかしいですよ？ そうだ、碧さんはどこにいるんです  
か？

……し、資料室。

アコヤ 資料室？

音無 碧さんって、もう資料みたいなもんだろ。

アコヤ 非人道的なことを言わないでください。碧さん、起きてますでしょうか。  
今日のデータも取っておきたいです。

音無 おおっと、行かない方がいいぞ。

アコヤ なぜ？ 碧さん呼びにくいだけですよ。

音無 えっと……照山が見張ってるから、照山に連絡すればいいよ。

アコヤ 見張り？

音無 助けて、照山。

アコヤ まさか、閉じ込めてるんですか？

音無 ……実はな、子安貝。今、碧さんの中にあるのは、蔵狩の魂なんだよ。碧さんは多分、本物の人魚だ。そして危険だ。隔離して、魂と体が乖離するのを待つことにしよう。

アコヤ えっ、でも、それじゃあ……。

音無 何だ？ それが最適解だろ。教授ももうすぐ出勤してくる。これからのことは、教授に指示してもらえばいい。……なあ、子安貝。研究するなら、目的を見失っちゃだめだろ。

アコヤ ……いい、いやです！

音無 嫌とかじゃない。

アコヤ まるで、あたしが変わったことしてるみたいに言われたくないです！

音無 別に、変とは言っていないだろ。

アコヤ でも、そう聞こえました。あたしは、あたしの目的をもって研究しているのに、余計な首をつっこまれた気分です。

音無 ど、どうしたんだよ、子安貝……。

アコヤ ……ごめんなさい。(ページを拾う) ……フィールドワークしてきます。

音無 え、まだ早朝だぞ！？ おい、子安貝！ どうしよう、何て言ったらよかつたんだ？ 照山く！ (舞台裏で) うっ、ごほごほッ。

〇 十二

アコヤ、走って登場。うつむく。

老婆、登場。照山の役者が演じる。

老婆(照山) なんじゃ、暗い顔をして。

アコヤ 照山先輩！？

老婆(照山) 誰じゃそれは。

アコヤ あ違う、村のおばあさんだ。

老婆(照山) さてはおめえ、研究所の者じゃな。

アコヤ そうです。あの、人魚伝説について調べていて……。

老人(照山) そがなもん調べてどうする！

アコヤ え！？

老人(照山) 何のためになるんだ！

アコヤ 村のおじいさん……。

子供(照山) 人魚とかキョーミないよね〜！

アコヤ 村の子供さん……！ そんなこと言わずに、話を聞いてください。碧さんの話とか、とっても面白くて……。

潤 で、何の役に立つんだ？

アコヤ え……。

潤 お前がやりたいだけじゃないか。研究所のためにもならない。

老婆(照山) もっと、人のためになることをしろ。

子供(照山) ためになることをしろ！

アコヤ ……あなた、誰ですか？ 潤教授は、そんなこと言いません。あなた、誰ですか！？

潤、アコヤにゆっくりと近づく。照明がだんだん絞られていく。

潤 私は……、お前の。

照山 (背後からなど、ホラーチックに) 心の中の人だよ。

アコヤ うわああ！！！

アコヤ、走って舞台上を移動。耳をふさぎ、目を閉じて蹲る。

### ○ 十三

アコヤ、立ち上がってあたりを見回す。

アコヤ ここは……。さっきの、妄想、だよ。うう、すっごい逃げちゃった……。

アコヤ、顔を覆って一拍。心を落ち着けて、よし、と息を吐き、石碑に向き直る。

アコヤ

山の上に、ポツンと佇む石碑。以前、役場に学芸員が居た頃はきちんと保存されていたようですが、経費削減か、管理人がいなくなると、役場の職員が掃除だけするようになり、現在はついにほったらかさそうです。

山の上からは、海が見渡せませす。昔の人は、何を思って、ここに石碑を建てたんでしょう。

みう、石碑の裏から登場。草むしりをしているところ。

みう

ああ〜〜〜だるいです〜〜〜だるいです〜〜。下っ端は掃除でもやらせときゃいいとも思ってるんですか〜〜〜そうですよー、どうせ仕事もねえ村だもんよ〜〜〜！

あーあ！ こっちだって本当はこんな仕事でしたかったんじゃないやい！

ばーか！

向こう側海だからやまびこも聞こえねえ！

何が人魚伝説だ、海しかねえじゃねえか〜〜〜！

釣り人 海しかねえから人魚伝説ができたんじゃないか？

みう 確かに。この辺りは海と山の距離が近いので、木に登ればそこから海に飛び

込めそうですね。いつそやってやろうかな。みうズ・マーメイド・ダイビク

ング！

釣り人 やめとけよ、さすがに死ぬぞ。

みう ですよね〜。……。はわわわわ、碑文が人になっている？ 石の化身？

釣り人 いや、化身じゃないが……。惜しいな。人魚だよ。

みう 冗談は顔だけにしとけよ。

釣り人 全身冗談じゃねえよ。

みう うそだ。怪しいな。こんな所で何してるんですか？ かわいいみうのストー

カー？

釣り人 全然。でも毎日ここを掃除してくれる、あんたの様子を見てたのは事実だよ。

みう トイレの神様のな。

釣り人 違う。

みう だよね、美人じゃないもんね。

釣り人 美人じゃないし、神様でもないが……。人魚の名を冠したばかりに、それっ

ぽくここにいなきやいけなくなった人だよ。おじさん可哀そうだろ。

みう うん。

釣り人 あんたは、人魚が似合いそうだな。

みう 確かに、おじさんよりは似合うと思うよ。おじさんよりはね。

釣り人 だったら、おれの代わりに、人魚になってくれよ。おれに魂をくれよ。

みう ……はあ？ まじで何言ってるの？

釣り人 脱サラよりも、自殺よりも、綺麗に消えてなくなる方法さあ。人は死んだ

ら、死体が残る。しかし、人魚になっちゃったら、人の記憶にすら残らん

海がナアナアに流してくれんだ。悪くねえ提案だと思うぞ。

みう でも、どうやったらいいの？

釣り人 死ぬ気になって、そこから海に飛んでみな。

みう ……いや、死ぬんじゃない(笑)

釣り人 やっぱやめとくか？

みう やるやらないとか、そこまで考えて喋ってなかったよ。でも、もし考えるな

ら……こっから飛ぶのも悪くないと思うよ。

全員、はげ。

研究所裏の海岸。崖の下。蔵狩の夢の中。

蔵狩 あれ。俺、いつの間に海に来たんだろう。……ん？ 海がぶくぶくしている？

人魚姫の城。蔵狩、夢から覚める。

蔵狩 うわああああああ！

はあ！？ どこだここ！ あつ、夢か！

ホヌ おはよう☆

蔵狩 ああああああ、人魚！

ホヌ ホヌです。亀つて意味ですよ。

蔵狩 何しに来たんですか。

ホヌ そろそろ、蛸が来る頃だと思ってね。

蔵狩 蛸。

蛸井 はい蛸です。

蔵狩 は、はあ！？ 蛸井！？

蛸井 はい蛸井です。迎えにきたよ、蔵狩くん。

蔵狩 なんでここに。

蛸井 魂を食べる悪魔だつて、人魚と同じイメージの存在。海の中にも来られます。

蔵狩 あーくま〜くま〜！？

蛸井 その話は追々。そんなことより、ホヌくん！ 君がいるっていうことは、ど

うやら私は、おやつにありつけるようだね？

ホヌ うん、お願いしたいよ。

蛸井 では、いただきます。

蔵狩 え、何して……きやあああああああ！ 見せられないよ！（内臓を啜る音）

蛸井 魂の欠片、ごちそうさまでした。

ホヌ お粗末様でした。

蔵狩 いや理解できないんですよね！ 人魚には、魂がないんじゃないのか！

ホヌ 僕には確かに魂がない。けれど最近、ある事情で魂が新しく生まれそうになることがある。

蔵狩 ある事情？

ホヌ 男同士の秘密だよ。僕は、人魚姫を自ら愛してしまったんだ。

ここでホヌにスポットライトが当たる。

ホヌ 僕らが姫を愛するのは、姫に命じられたから。僕らは首輪さえなければ、彼女を愛することはない——はずだった！ ところが、この強制的共依存の渦中で、僕は魂を取り戻してしまった。前代未聞だよ。しかし困った。なぜか？ 僕は、姫と一緒にいたいんだよ！ 人間に戻ってしまえば、もう傍にはいられなくなる。そこで、  
蛸井 ばくう！

スポットライト終わり。

蔵狩 研究対象としては面白い話ですけど。

蛸井 思っていたより元気そうだな。そう、ホヌを連れ出した方が教授も喜ぶってもんだ。それに、自ら魂を生み出せない奴は、人間としても長続きしないんじゃないのかなあ。

シイラ それは、どういうこと。

ホヌ シイラ！ さっきの話を聞いて……。

シイラ あなたのことは後でいいわ。それより、悪魔。碧の話よ。碧は、人間になれないの？

蛸井 そうは言ってないですよ。

シイラ ふざけないで。だから止めたんですの。あんたが碧をそそのかしましたのよ。それで、あなたが許可を出しましたの、姫！

人魚姫、登場。みうが付き添っている。

ホヌ 姫……。

蛸井 これはこれは！ え、何でいるんですか？

シイラ 連れてきましたの。ホヌが変態の所に戻ろうとしているから、おかしいと思つて。

人魚姫 悪魔。わたくしは、人魚たちがこれ以上傷つかないために、楽園を作つた。碧を信じて送り出したこと、間違つていたとは思わなければ……、傷つくことを知っていて、ただ待つているのは本望じゃない。

蛸井 つまり？

人魚姫 碧が傷つく前に、ここに連れ戻しなさい。

蛸井 しかし、私の主人は貴女じゃありません。碧を連れ戻すなら、代わりの人魚を連れ出さなくては。

人魚姫 ……。

シイラ それなら、丁度いい人がいる。姫、こいつは、あなたに不要な感情を向け

ました。不要な、感情というものを。人魚には向かない人間です。ここには要らない、そうでしょう。

シイラは正しいわ。

ホヌ 嘘でしょう、考え直してください。

人魚姫 心配しないで、ホヌ。あなたがここにいることを望むなら、わたくしは受け入れる。

シイラ 姫！ 前とは話が違うじゃないですか！

人魚姫 それは、わたくしだって人魚ということよ、シイラ。けれど、確かに一言加えたい。ホヌ、あなたはもうここにいるべきではない。そのこと、ちゃんとわかってここにいなさい。

ホヌ ……感謝します、人魚姫！

シイラ ……あんたもなんかなの？

みう みうは難しいこと考えません。

蛸井 まあ、そこまで深刻にならなくてもよろしいかと。どのみち、碧はそろそろ人魚に戻りますよ。私が蔵狩を迎えに来たのがその証拠。

蔵狩 それって、もうすぐ俺は人間に戻るってことっすか？ そっかあ……。

人魚姫 碧は、上手にできなかったのね。

蛸井 狙った獲物が大きすぎた。

シイラ 最悪。

人魚姫 ねえ、気になることがあるわ。碧は人魚に戻って、それからどうなるの？  
あなたは、主人に人魚を見せると言っていたけれど、見せ終わったら、碧は海に戻ってくるのかしら。

シイラ は？

蛸井 さて、どう思う、蔵狩。教授は、研究所に人魚が現れたらどうすると思う？  
蔵狩 え？ そりゃあ……、サンプルとして保管し、学会に提出するんじゃないですか？

人魚姫 学会？ あなたの主人は、学者なの？

蛸井 その通りですよ。言ってますでしたっけ。

人魚姫 それは、まさか、人魚の正体が、世に晒されるかもしれないということ？  
この楽園が、壊されるということ？

蛸井 ストップ！ 確かじゃないが、そういうことも十分あるという話！

人魚姫 だめよ！ 許さないわ。ここは楽園です。人間世界から外れた者の、最後の居場所です。それを、人の足で踏み荒らされるような真似は許せません。  
そうでしょう、シイラ、ホヌ、みう。

みう (首傾げ)

シイラ ……。

ホヌ ええ、同意いたします。

蛸井

じゃじゃーん。では、どうするのでしょうか？ そもそも、碧には人間になるチャンスを与えるだけという約束。新たな契約を結ぶならまだしも、契約を破るなんて、悪魔に対して命知らずも甚だしい。

人魚姫

いいわ。

蛸井

え？

人魚姫

命知らずで構わないと言っていますの。碧を殺してくださいませ。

ホヌ

何を仰いますか、姫。あなたの大事な碧ですよ！

シイラ

わかりません。そのお考えを説明してください。

人魚姫

わたくしにとつて、人魚は皆平等に愛おしい。だから愛でるにも、同じ形の貝殻のように。

シイラは正しい。でも見失わないで。あなたに、この首輪以外の何が必要なの？ わたくしには、人魚には、それ以外要らないのに。

シイラ

あなたは人魚を守ると言いながら、流れに身をまかせているだけ。まるで海月のような人！ それで守ったことになるかと！？

人魚姫

人魚が波に乗るのは当然のこと。

シイラ

人魚を言い訳にするな！ 少しは自分で考えろ！

ホヌ

シイラ！ 姫だって、乗るべき波くらい見極めているよ。正しいだけでは生きられない。君は身をもつて知っているね？

シイラ

あんたたちは波に乗るのが得意だからそう言うの。得意なことだけしてやめた気になるな！ ちゃんと頭で考えてよ！ 何をすれば一番いいか！

蔵狩

おーれを挟んで争うなー！！！！

ホヌ

……歌ったね。

人魚姫

歌ったわ。

シイラ

変態が真の人魚に！

蔵狩

歌ってない！ っていうか、歌ったぐらいで人魚になるか！！

みう

あ。

人魚姫

なんてこと。

蔵狩

ちよつと……通ります……。

蔵狩、舞台の端に移動し、膝をかかえて座る。そこには既にみうが座っていた。

蔵狩

あ、もう大丈夫です。

シイラ

喧嘩を止めたかったんじゃないの？

蔵狩

あ、はい。俺はもう。

シイラ

は？ 何がしたかったのよ。

蔵狩

……そんなこと言われても、じゃあ、あんたこそ何がしたいんですか。

シイラ ……は？

蛸井 (蔵狩の隣に座って) ……なんてことを言うの。

蔵狩 だって、そう思いませんか？ 何の話か、よくわかんないんですけど……、助  
きたい人がいるなら、助けに行けばいいじゃないですか。

蛸井 まあね。

シイラ ……わたくしは、碧を助けたい、って、思っていないって、言うの？

蔵狩 いや、知りませんが。あんたしか知らんと思いますよ。

人魚姫 なぜ助けたいの？

シイラ ……え？

人魚姫 ところで、なぜシイラは、碧を助けたいの？ わたくしには、わたくしが  
あの子を助けたい理由を答えられない。シイラは、答えられる？

シイラ 一緒に歌って、踊った子ですよ。助けるのが、当然じゃないですか……。

人魚姫 当然って人情？ 人魚に人情。語呂がいいわね。……何かを選んで決める

とき、大切なものって、語呂か、シイラ？

シイラ ……違います。違いますが。……それに答えられる魂は、わたくしにもあ  
りません。

蛸井 よし。では、碧を殺し、人魚誘拐事件はなかったことにいたしましょう。

ホヌ 待つて！ わかったよ！ 僕が代わりに行く。それで済む話なんだろう。

人魚姫 ホヌ。無理をしなくても、碧がいるのに。

ホヌ だからこそです、人魚姫。僕の魂が、生まれて言うのです。

蔵狩 先輩、答えてくださいよ。魂ってなんなんですか。生命維持器官じゃないん

ですか。俺は魂を、あんたたちの言う意味で捉え切れていない。まさか、行  
動理由なんてちんけなものじゃないでしょ。人間に必要なものって、そんな  
ものじゃないでしょうね。

蛸井 いや、魂は生命維持器官じゃないよ。但し、血管でつなぐ臓器じゃないの  
は、今の時代なら常識だろ？

## ○ 十五

潤 魂があるなら悪魔ぐらい居るだろうと、お前をここに置いてるが、私は世界  
の全てを知りたいなんちゃってじゃない。ただ、人魚の姿を見たいだけだ。そ  
のためなら、多少の回り道も楽しめるんだよ。今回のことは、そんな迂回に過  
ぎないとすら思っているがね、お前。

潤 なんだこの絵本は。

蛸井 人魚と引き換えに手に入れた収穫です。

潤 小学生の夏休みの自由研究じゃないんだがね???

蛸井 え？ いや、面白くないすか？ 子安貝企画の、目玉展示ですよ。そうじゃなくても、学会に出すのに十分な内容だと思っくんすけど。

潤 お前は今、研究員として喋っているのか？ 悪魔として喋っているのか？

蛸井 研究員です。

潤 悪魔か……。

蛸井 なんでそうなるんすか。

潤 お前なんか嘘ばっかだ。人魚伝説も嘘っばちだろ。

蛸井 身も蓋もない。

潤 不幸になると人魚になる……やっぱり、卵が先か鶏が先かというような話か？ 確かに、これまでの登場人物で不幸じゃない者はいないな。お前以外。

蛸井 そりゃあ、私は人魚じゃありませんので。

潤 コンスタントに食べられるおやつが手に入ったなら、もう私と契約する必要ないんじゃないか？

蛸井 ええ！ なんでそんな寂しいこと言うんですか！ 餌だけあっても人生は楽しくないんですよ！

潤 私も、将来は人魚になるんだろうか？

蛸井 いいえ、そんな不幸なことにはさせません！ ちゃんと火葬しますのよ！ なら私は幸せなようだ。はあ？ 下らん落ちを着けた気になるなよ。

潤 そもそも、お前は間違ってるんだ。私が探しているのは人魚。それも、私の理想の人魚なんだよ。お前が連れてきたのは、人間の成り損ない。どいつもこいつも、ここは、人魚実在可能性研究所だと、何度言ったらわかるんだ。

蛸井 いいや、人魚に拘っているあんたが悪いと思いますよ。ホヌでもいいから、ちよつとデータ取って出るときや、大分褒められると思うんですけど。

潤 つまらないことを言ってるんで、子安貝を呼んでくれ。あいつ今どうしてるんだ。

蛸井 ああ、(ページを拾って捨てる)この続きを書いていますよ。こっちに呼ぶんじゃなくて、みんなと合流しましょう。くれぐれも、海底の話は、秘密ですよ。

## ○ 十六

アコヤ それで、皆さんが聞きたいのって、ここからですよ。でも、残念ながら、あたしもよく覚えていないんです。碧さんが来て二日目の深夜、あたしは資料室に忍び込み、碧さんに会いました。話をしたくて、たまらなかつたんです。すると、いつのまにか、目の前には海が広がって……。

碧 アコヤさんが考えているような人魚は、存在しませんよ。

アコヤ ……え？

碧 少なくとも、わたくしは、アンデルセンに出てくるような見た目ではありません。

アコヤ それを、どうして今、あたしに言ったんですか？

碧 可哀そうに思ったんです。幻想のために、努力を続けること……。アコヤさんは、やはり、人魚になりたいですか？

アコヤ わかりません。何をすればいいか、わからなくなりました。前から思っただけです。人魚になりたいなんて、いつまで言ってるんだろうって。だから、碧さんが研究員としてのあたしを頼ってくれて、嬉しかったんです。でも、違うんです。これじゃあ、碧さんしか、あたしの目的がなくなってしまうんです。

碧 どうか、不安にならないでください。それはあなたの不幸ですが、あなたの夢を叶えます。わたくしに、飛びこんでください。わたくしは海、海とは人の無意識。さあ、海に落ちれば、やがて不幸は罪と知る。

アコヤ 不幸になるのが、罪ですか？

碧 いいえ。不幸であると思っただけのこと、そのことが罪であったと知るので。幸せは、幸せになろうとしている人の元にしからず巡りません。幸せを受け入れることができる人しか、幸せにはなれないのです。

しかし、それを知った所で、アコヤさん。あなたに何ができるでしょう。我々に何ができたというのでしょうか。だからわたくしは、あなたの罪を、罪として受け入れます。そして、海の底で赦したい。

アコヤ 碧さん、ごめんなさい。あたしが、もっと早く会いにできれば、そんな話をさせることも無かったと思います。

碧 え？ いえ、閉じ込められて気が狂ったとかではないんですが。

アコヤ でも、碧さんは、焦っているように見えます。

碧 ……わたくしは、人魚姫の元に帰ることになったそうです。

アコヤ えっ、

碧 だから、わたくしのこととは、もうよいのです。……よかったですね、アコヤさん。もう、何をすればいいのかと、迷うこともありませんよ。

アコヤ 何で、碧さんがそんなことを言うんですか。そんなことを言って、あたしが迷った時間は、なくなりません。

碧 ……むかし、むかしから始めましょうか。

アコヤ ……え？

碧 お詫びと言ってはなんですが、あなたの役に立たせてください。

間。

アコヤ ……碧さん！

碧 はい。

アコヤ あたしはまだ、碧さんに触れていますよ。

碧 そうですね。

アコヤ ここも。

碧 ええ。

アコヤ ここも！

碧 あの。

アコヤ あたしにも！ 碧さんが海から出てきたのは、間違いではありません。碧さんは、人間でした。あたしは、あなたに会っています。触っています。人の魂を借りたとしても、あなたにこの瞬間、魂はあつたんです。

だから、あなたが人間になることも、あたしが人魚になることも、夢だと  
言わないでください。夢ではなくて、あたしたちの、これからの予定なん  
です。

碧 ……わたくしに、そう言える魂は、まだありません。

碧、服を脱ぎはじめ、アコヤがその腹を見てびっくりする。

アコヤ 人魚になった人間について、残された人々の記憶は曖昧になる。教授のその推測は……いえ、その推測は正しいんでしょう。けれど……、お腹に嵌った、丸くて、大きな魚の目。あたしはきつと、忘れません。

## 〇 十七

役場にて。

ペリカン

あれ？ あ、文化財課の……？ ですよね！ 久しぶりな感じですけど、  
なんでかな……、ん？ 育休？ すっごい長かったっすね！

ペリカン、反対方向を向くと、ロープや紙袋を持った蛸井と蔵狩とアコヤがいる。ロープをビン、とするアコヤ。

ペリカン

え？

ペリカン、顔に紙袋をかぶせられ、ロープで縛られて三人に誘拐される。

研究所にて。

ペリカン、アコヤたちに牽引されて縛られたまま中央に座らされる。

以下、牽引中のアコヤと蔵狩の会話。

アコヤ えっ、ということは蔵狩さん、今まで人魚だったんですか？

蔵狩 そうすよ。羨ましいか？

アコヤ それ、あたしがなりたい感じの人魚ですか？

蔵狩 いや。

アコヤ じゃあ羨ましくはないですね〜。

蛸井、座らせたペリカンの紙袋を取る。

ペリカン なんで！？ なんで縛る必要があったの！？

アコヤ ペリカンさん！ 聞いてください！

ペリカン 何！？

照山、「人魚研究博物館」と書かれた紙などを広げてみせる。

研究所メンバー 「人魚研究博物館」

アコヤ 設立したいと思います。

ペリカン もしかして、研究所存続のためのアイデア？

アコヤ フィールドワークをしているうちに、思ったんです。役場が研究所反対派を結成できたのって、ここの仕事が皆さんに知られてないのが原因じゃないかって。いかって。

蛸井 子安員の企画です。

ペリカン いい感じって言いたいところですが……何展示するんですか？

アコヤ 今回の体験をS3物語にして、絵本を書いたんです。学会には出さないって言われましたけど。

みんなで教授を一瞥する。

ペリカン なんですか、今回の体験って。

みんなでペリカンを見る。

研究所メンバー えへへ（変顔）

ペリカン 気持ちわり。まあ、やっと生まれたアイデアですから、僕もなんとか上に交渉してみますよ。

蔵狩 でも博物館なら、学芸員とかいるんじゃないの？

ペリカン 確かに。

蛸井 はい、ここに。

ホヌ 亀梨です！ 生前は学芸員やってきました！

蔵狩・ペリカン ええええええ！？

アコヤ 生前？

ホヌ あっ！

ペリカン 育休明けに申し訳ないです！

ホヌ いえいえ、僕だって、仕事ほしいんです。

蔵狩 いや、何やらせてんだよ！

蛸井 だって教授が、理想の方向性と違いすぎていらないうんだもん。

潤 だってそうだろう。

音無 何の話？

アコヤ わかりません。

照山 (黙ってホヌの前に出る。)

ホヌ (見つめ返す)

照山 (黙ってホヌを指さして教授を見つめる)

潤 だって、いいだろ。そっちの方が、ハッピーエンドで。

碧 親愛なるアコヤさん。とても美しい魂を持つあなた。

ああ、いい時代になりました！ 魂と命の関係が可視化され、気の迷いでも迷信でもなく、その在り方が問われる時代。

あなただけは、そのままで……。

シイラ なぜでしょう。

人魚姫 なぜあなたのような人は、この世に存在するのでしょうか。

シイラ なぜわたしのような人は、この世に存在したのでしょうか。

人魚姫 なぜか海に連れ戻され、なぜか夢は叶わない。

碧 光届かぬ海の底で、何と言って、御伽を締めればよいのでしょうか！

みう 悲愴の後には歓喜を並べ、みうが代筆いたしましょう。みうはちっとも傷つ

いていないので、冷静な判断ができるんです。御伽噺の、最後の印は――。

Fin.